

(5) 三鷹市医師会（第3回検討委員会資料）

平成22年9月6日

第3回市民センター周辺地区整備に関する検討委員会

委員報告 三鷹市医師会 角田 徹

平成22年8月24日（火）三鷹市医師会館にて、三鷹市医師会と三鷹市の意見交換会を行いました。意見及び質疑がありましたので、下記のとおり、報告いたします。

1 総合保健センターについて

- ・ 新型インフルエンザなどに対する発熱外来等の対応として、陰圧室設置・出入口についてはどう考えているか。
→総合保健センターは、臨時的な診療所と考えている。今後、具体的な体制づくり等を検討し、医師会と協議しながら陰圧の範囲を決めていきたいと考えている。また、出入口については直接出入りができるよう検討していく。
- ・ 発熱外来の患者は、呼吸器感染症、肺炎などが想定される。レントゲンがないと他の機関での確認が必要となるため、新施設には、デジタルレントゲン（胸部のみ1台500万円以下）を設置したほうがよい。また、胃集検や結核健診のレントゲン用バスをこの施設で代替するという考えられるのではないか。この場合は胃透視用の装置が加わるので広めのX線シールドルームが必要になることと、機器費用が少し高くなることが予想される。
- ・ 休日歯科診療室にレントゲンがあるか不明だが、レントゲン設置などを想定した場合、X線シールドルームにする必要があるが、完成後の工事は極めて困難なことを考慮いただきたい。

2 ハピネスセンターについて

- ・ ハピネスに通う子ども達が保健センターから段差のない移行ができるよう配慮してほしい。
- ・ 集約化とは別にハピネス来館者のためのプライバシーなどについても考慮していただきたい。
- ・ 総合保健センターで行っている経過観察心理グループ（ころちゃんグループ、うさぎグループ）とハピネスの心理療法は、同じような機能をもつため連携しやすい。人材、場所ともに有効活用してほしい。また、教育部とも距離が近くなるため十分連携してほしい。
- ・ 現在も保健センターとハピネスセンターは研修機能を持っている。子育て、虐待、障がいに対しての市民及び関係機関への研修機能をさらに充実・発展させていただきたい。

3 公園施設について

- ・ 大会開催時に急患の救護に行く場合があるが、現体育館には救護室がなく大会本部の一角で机をベット代わりにしている。新施設は規模が大きいため、救護室が必要だと考える。
- ・ 公園空間などは休日に人が集まると思われる。休日の市役所としてのサービスについてはどう考えているか。休日は休業してしまうのか。
→検討委員会の中でサービス水準向上のための議論をしたい。
- ・ 健康づくりのために公園内にマラソンコースなどがあつたほうがよいのではないかと。
→屋外空間にもウォーキングコースなどを検討していきたい。
- ・ スポーツ施設での大会開催時には父母も応援に来るため、観客席は必要だと思うが、計画されているのか。
→観客席については、井口で計画されていた規模ほどではありませんが設置する予定です。

4 その他施設について

- ・ 東八道路の交通量は多く、コミュニティバスを通すのであれば、敷地内にバスを入れて人を下すべきである。
- ・ これだけの規模であるから、食事のできる場所があったほうがよいのではないかと。
→軽飲食ができる規模のものは検討している。
- ・ 災害時は、エレベーター・通信系の故障なども考えられるため、防災拠点とするならば5階より1階のほうがよいのではないかと。
→当初、事務局としては1階を想定していたが、所管課と調整した結果、災害対策本部と被災市民との動線を分けるために5階とした。
- ・ 防災拠点ということならば、備品庫が必要ではないかと。
→設置する予定。
- ・ 災害時に高齢者や障がいを持つ人は、学校などの避難所での生活は難しいため、新施設で避難所も検討してほしい。
→ハピネスセンターなどの第2次避難所（福祉避難所）で対応したいと考えている。

5 その他

- ・ 様々な場面で、意見を聞く会を行っているがどのような位置付けなのか。
→昨年度から、利用団体を中心に50回を超える意見交換会を行ってきた。利用者等の意見のすべてを反映することは困難だが、最大限反映するために行っている。
- ・ 今までの意見と同様の内容もあると思われるので、他の分野を含めた今までの意見等をまとめてほしい。
- ・ 昨日の福祉会館の会議にも出席したが、新施設へのアクセスとして、現状ではバスを乗り換えなければならない等の意見が多かった。
- ・ 総事業費はいくらか。
→3月に確定した整備基本プランでは、建設費の概算で127億円と示しており、市負担額は補助金を差し引いた80億円。その他に用地費もあるが、施設集約後の跡地の売却を行い、負担軽減を図っていく。総事業費は、今年度後半に明らかにできると考えている。
- ・ 市は、国庫補助金の分が負担軽減になると説明しているが、元を返せば、税金なのだから、無駄を省いて事業を進めてほしい。
- ・ 精神医療的にコミュニティがあれば防げる問題があるので、この様な場の整備は良いことだと思う。
- ・ 以前、市町村別平均寿命で三鷹市の男性が上位に入ったことがある。(2005年三鷹市男性3位81.4歳。) 今回の施設整備にあたって、No.1をめざすことを整備のキャッチコピーとして市民にアピールし関係各位に頑張ってもらいたい。
- ・ 駐車場のスペースが少ない。車で行けない(不便だ)から来館しない、という市民が増える可能性がある。
- ・ 市民センターも重要だが市役所本体の建て替えなどをまず考えるべきではないかと。

(6) 公民館運営審議会 (第3回検討委員会資料)

公民館運営審議会 生田美秋

提案1 新たな施設の管理・運営を担う「・・・事務局」の設置

- 提案理由 市民・利用者の立場から、新たな施設の管理・運営を一体的、計画的、主体的に推進するための組織。事務局の説明では「直営・業務委託で行なう業務と指定管理者が行なう業務を組み合わせ、最適な管理・運営体制を構築していく」とあるが、管理運営の二元化となり、設置目的を十分に達成できない可能性がある。都市経営の視点に立って一元的に管理・運営を行なう組織を模索したい。
- 設置目的 市民・利用者の立場から効果的で効率的な管理・運営を行なう。
中・長期的な計画のもとに管理・運営を行なう。
多機能複合施設のメリットや世代間交流を主体的・積極的に推進する。
- 主な業務 新たな施設の管理・運営の計画(中・長期、単年度)を立案し、実行すること。
新たな施設の指定管理者の管理を行なうこと。
新たな施設内の代表者による代表者会議を主催すること。
新たな施設の運営を審議する運営協議会を主催すること。
新たな施設の広報・宣伝を行なうこと。
新たな施設の市民参加・ボランティアの活用に関すること。
新たな施設の外部資金(助成、協賛、寄付)の調達に関すること。
- 組織 ・・・・事務局。・・・長、次長、職員の4~5名。*当面は都市再生部が主導。

提案2 多機能複合施設・世代間交流・拠点施設のあり方について

- 提案理由 新たな施設は他世代が使用する多機能複合施設となる。この複合施設としての特色を活かす取り組みやコミュニティー再生の観点から積極的に世代間交流を促進し、新たな価値・魅力を創造する施策を展開していく必要がある。
- 具体的な案
- ・保育室を講座開催中の預かり保育の場としてではなく、日常的に保育のみならず子育ての相談、情報交換の場としていく。多目的室を活用して絵本の常設、お話会の開催を「星と森と絵本の家」の協力を得ながらすすめていく。
 - ・ガラス張りのホール(防音)は大人の社交ダンス、若い人のヒップホップダンス、音響機器のあるスタジオ(防音)は大人の音楽鑑賞、若い人の音楽練習に使える。同じ部屋の異世代の利用は、使用を時間によってシェアすることで可能となる。中高生の居場所づくりの観点からも検討が望まれる。
 - ・新しい施設の連携による相乗効果の一例として、社会教育会館では各施設との連携講座の企画が可能である。
 - ・新たな施設を構成するのはそれぞれの分野の拠点施設である。拠点施設であることが市民にもよくわかり、新しい施設の一体化のためにもスポーツ施設はスポーツセンター、福祉会館は福祉センター、社会教育会館は社会教育センターとして名称を統一できないか。
- 市民センター周辺地区整備事業が、単なる既存施設の移動、事業の継続ではなく、新たな市民の利用が促進され、防災と市民交流の拠点、ゆとりとくつろぎの空間の誕生といった市の新たな価値の創造につながることを期待したい。

(7) 社会福祉協議会（第5回検討委員会資料）

市民センター周辺地区整備に関する役員等懇談会及び理事会報告

★役員懇談会

開催日時 平成22年11月15日（月）
出席者 28名（理事・評議員・正副部会長）

★理事会

開催日時 平成22年11月24日（水）
出席者 9名

<意見・要望事項>

- 1 市民センター利用者の交通アクセスについて
コミュニティバスの路線変更等を行うなど、市民センター利用者の交通アクセスの改善を図られたい。
- 2 災害時対応
施設内の災害時対応について、防災課との連携を図る中で、災害ボランティアの受け入れ及び支援物資の適切な保管、災害用トイレの配置等を含め、万全な対応策を検討されたい。また、ボランティアセンターと連携し様々な活動を支援する窓口設置について検討願いたい。
- 3 利用者の安全性確保
本庁舎との利用者の往来が頻繁になることが予想されるので、地下道を設けるなど安全性の確保に十分留意されたい。
- 4 施設内のバリアフリー化
高齢者、障がい者が利用する頻度が高いので、施設内のバリアフリー化を図られたい。
- 5 施設の管理運営等について
指定管理者制度の活用を含め、管理形態のあり方を十分検討願いたい。また、各施設、各事業に関わる所管部課及び関係団体等と協働した仕組みづくりを検討されたい。

(8) 社会教育会館利用者連絡会 (第5回検討委員会資料)

平成 22 年 12 月 21 日

市民センター周辺地区整備に関する検討委員会

委員長 角田 徹 殿

公募委員

社会教育会館利用者連絡会

今井一恵

保育室について

12月18日に行った市の説明会の中で、社会教育会館の保育室利用者から新施設の保育室に対して強い懸念が示されました。

我が国は今、少子高齢化が進む中で子育て環境を少しでも良くし、未来を担う子どもたちに元気ですくすくと育ってほしいと、さまざまな対策に取り組んでいるところです。三鷹市でも子育て環境の充実のためにいろいろな取り組みがされている中で、この問題はとても重要なことだと考え、社会教育会館利用者連絡会として、保育室に対して十分な検討をしていただくよう文章で報告させていただくことといたしました。

別紙で社会教育会館の保育室利用者の要望書を添付いたしましたが、社会教育会館の保育室「クレヨンランド」は利用者大変好評です。そして、子育て中の母親の保育室への思いはとても切実です。少子化が進む中で、私たちはみんな三鷹市での子育てが楽しく、親子ともにいきいきと毎日を過ごしていけるものであってほしいと思っています。今回の計画では十分な配慮がされているのでしょうか。

新施設での保育室の計画案

新施設の計画案では保育施設は現在の社会教育会館の保育室と保健センターでの保育室、また体育施設を利用する市民やその他の市民のための保育も行なわれる共有施設で、1階中央部分にトイレも含んで約110㎡の広さで設置される予定と伺っています。

社会教育会館の保育室の現況

現社会教育会館の保育室の面積はトイレを除いて70㎡強の広さで定員20名です。利用状況は社会教育会館の平成21年度事業実績によりますと次の通りです。

内容	期間	回数	曜日	時間帯	在籍 保育児数	備考
保育付主催講座	5/12~3/6	10	火 (前期)	午前	20	2 コース
		10	火 (後期)		20	

		30 × 3	金 (通年)		11	2 コース
		30 × 2	土 (通年)		5	2 コース
保育付自主グループ 前期	5/11~10/19	15	月	午前	20	6 グループ
	5/7~9/24	15	木		20	6 グループ
保育付自主グループ 後期	11/2~3/8	15	月	午前	20	6 グループ
	11/5~3/11	15	木		20	6 グループ
企画・運営委員会 つどいなど	5/29~3/20	10	金・土	午前・ 午後	延べ 73	

保育室使用人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数	539	899	932	738	395	830	955	952	715	794	899	968	712
件数	29	39	38	42	23	38	44	45	43	37	35	40	9616

保育者のつく 講座・自主グループ活動は日曜日と休館日の水曜日を除いて毎日午前中実施されています。利用希望自主グループは大変多く、抽選になっている状況です。ここで働いているパート保育者は、かつて利用者だったお母さんがこの保育室の存在に感謝し、次の仲間を支えていきたいと思って活動しているなかばボランティアの市民なのです。午後は保育者はつきませんが、さまざまな自主グループが活発に利用しています。

新施設での保育室の面積の増床を

この社会教育会館の保育室事業が新しい施設でも継続できるよう、場所の確保をお願いいたします。現在計画されている広さでは今まで通りの活動ができなくなってしまう恐れがあります。110㎡では現在の社会教育会館の保育室を少し広くした程度です。新規に自由に保育室を利用したい人たちと共存していくためにはもっと広さが必要です。私たちは、少なくとも今の社会教育会館の規模のものを2つ設置できるような広さが必要だと考えます。

社会教育会館の保育室と市民大学総合コース

この社会教育会館の保育室はかつて昭和45年度に、市民大学総合コースの前身の専攻コースの受講生の女性たちが、子育て中の女性でも学習ができるようにという強い熱意で取り組み、昭和47年度、現在の社会教育会館の開館と同時に公民館保育室として全国に先駆けて始まった事業です。三鷹市でも東京郊外の住宅地として核家族化が進む中で母子が孤立しないために果たしてきた役割は、大きなものであったと思います。そして今、市民大学総合コースは定員の2倍近い応募者が殺到する人気の高い講座となっています。保

育付きの講座であることにより20代から80代までの貴重な異世代交流の学習の場となり、企画委員会・運営委員会もワイワイと和やかに家庭的な雰囲気もかもしながら行なわれています。誰でもが参加でき、自由にフランクに話し合える地域での出会いの場・学びの場としての社会教育会館の活動に、子育て中のお母さんもお父さんも参加し地域の一員として共に学ぶことができるよう、学習の間子どもたちを責任を持って預かる保育室は欠くことができないものとなっています。

この私たちの先輩がつくり育ててきた保育室をこれからも大切にしていきたいと思えます。

以上